



内科検診特集

今月は、14日（木）に実施される内科検診について特集します。「内科検診」ってどんなことをするんだろう？何を診てもらおうんだろう？といった今更聞けない素朴な疑問から、昨今ニュース等で話題の「検診におけるプライバシー問題」に対する石神井西中の取り組みについても触れていきたいと思ひます。

内科検診って一体なにをする検査？



★内科検診では、こういったところについて診ています★

・胸に聴診器をあてて、心臓の音や呼吸の音を確認します。

→心雑音や不整脈がないかどうか。

結核問診票で2週間以上の咳があると回答した生徒は、喘息の有無も確認します。

・視診で、皮膚疾患やけがなどがいないかを確認します。

→みずいぼやとびひ、アトピーといった皮膚症状の確認をします。皮膚炎は、皮膚同士がこすれる部分（関節など）に発生しやすいため、場合によっては関節を曲げ伸ばしして観察します。

・身体計測の結果と視診で、栄養状態や発達の状況をチェックします。

→身長と体重のバランス、1年間の増減などから総合的に状態を判断します。視触診で貧血の有無を確認することもあります。

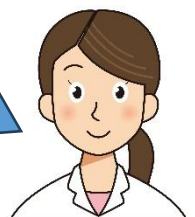
・背中の視診・触診にて、脊柱側弯症の疑いがないか確認します。

→本校では1年生と3年生で実施。背中の左右の肩甲骨の高さに違いがないか、背骨のねじれや弯曲の有無を確認します。まっすぐ立ってもらう必要があるため、場合によっては医師が肩や腰を支えることがあります。また、しゃがみこみや片足立ちなど、骨や筋肉の状態も確認します。



内科検診では、色々なことを診てくださっていることがわかりました。でも、内科検診は服を脱いで受ける検査なので、少し恥ずかしいです。

上に書かれている通り、内科検診では短い時間の中、様々な視点で診察しています。胸の音を聴くために胸に聴診器をあてる必要がありますし、背骨の高さは下着ごしては見えづらいので、下着をとってもらふ必要もあります。次のページでは、石西で実施しているプライバシーへの配慮について紹介します。



石西中のフライングに配慮した内科検診への取り組み

- ★石西中では、内科検診を男女別の部屋にて実施します。
- ★男子は男性医師、女子は女性医師が検診を担当します。(保護者や本人からの申告がある場合は選ぶことも可能)
- ★検診は個別に仕切られたブース内で実施します。必ず、2名以上の大人がその場に付き添います。
- ★下着はとる必要がありますが、上半身の体操服のシャツ1枚は着用してOKです。

下着は腰の位置までおろし、背骨にかからないようにすればOK



- ★胸の聴診を行うときは、胸側のシャツを自分でめくり、聴診器が当たりやすいように協力をお願いします。

必ずしも大きくめくらなくてもいいけど…

自分で胸側のシャツをめくる



- ★脊柱の状態を診るときには、おじぎの姿勢で背中中の肩甲骨を確認します。上半身のシャツは着用OKですが、おじぎしたときに背中側のシャツは介助者(養護教諭もしくは事務補助の女性)がめくります。医師は、必要に応じて背中に触れることがあります。



医師も介助者も、背中とシャツ以外に触れることはありません
おじぎの姿勢がきちんとできれば数秒で終わります

皆さんの協力がスムーズな内科検診につながります！

最後に。。。

5月は、運動会練習のため、体育の授業や全体練習など身体を動かす機会が多くなります。それに加えて、暑い日があったかと思えば寒くなったり等、気温が安定しない日々が続く傾向にあります。そのため、西中生の身体にとっては負担の多い1か月となることが予想されます。

そんな5月を乗り切るためには、ありきたりですが、質の良い睡眠、バランスのとれた栄養をとり、体力をつけることが大切です。また、気温への対策として汗をふくタオルや薄手のはおりを準備をすること、熱中症対策として水筒を持参してこまめに水分をとることなども重要です。

運動会を元気に迎えるために、意識をしてみてくださいね。